

# 築く KIZUKU

広報誌

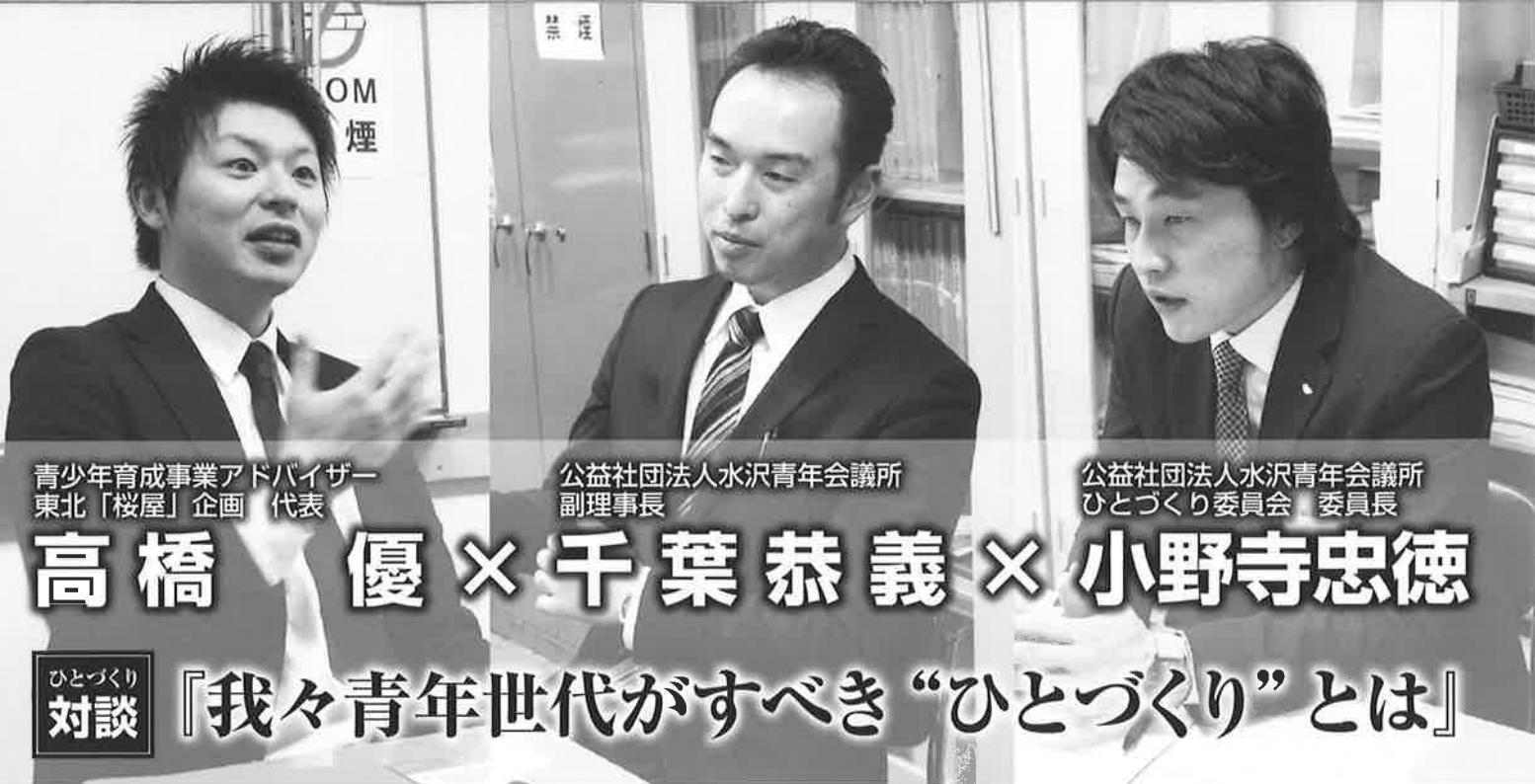
2016年度



3 2016 March  
No.621

2016年度スローガン

「今」を駆け抜けよう!  
～燦然と輝く笑顔溢れる未来を目指して～



青少年育成事業アドバイザー  
東北「桜屋」企画 代表

公益社団法人水沢青年会議所  
副理事長

公益社団法人水沢青年会議所  
ひとづくり委員会 委員長

# 高橋 優 × 千葉 恭義 × 小野寺 忠徳

## ひとづくり 対談 『我々青年世代がすべき“ひとづくり”とは』



高橋 優 (たかはし・まさる)

奥州市胆沢区出身、1989年8月20日生まれ。  
青少年育成事業アドバイザーとして、岩手県子ども  
会育成連合会、東北青少年育成連合会「みちのく」、  
全国青少年育成アドバイザー岩手支部、子どもの未  
来を育てる「群」の会といった団体に所属する傍ら、  
東北「桜屋」企画を立ち上げ各地で活動中。

一はじめに青年会議所との関わりがありましたら教えてください。

**高橋** 子どもの時のインディアン旗野球大会であるとか広報誌をたまに読むぐらいで、今は直接的な関わりはありませんでしたが、「青年会」を調べたくてネットで検索するといつも上位に出てくるので活発に活動されているのだなと思いました。私は小学生の時は野球少年でして、野球をしている子どもも多かったのでインディアン旗に参加すると英雄扱いでした(笑)。

一青少年育成に携わるきっかけとなったものは何なのでしょうか。

**高橋** 私が高校の頃はいたずらが好きで、そんな私に対して色々指導してくれたのが地域の青少年育成をされているおじちゃん・おばちゃんでした。そういう人たちと関わっていくうちに自然と一緒にやりたいなと入っていきました。

**小野寺** そういった人たちに言われて事業に参加するようになったということでしょうか。

**高橋** 二つの大きな事があって、一つは高校生の時に地区や県、東北の青少年育成活動に参加し、色んな人に出会ったことです。二つ目は岩手県子ども会育成連合会の専門指導員をやらせていただいているのですが、例えば廊下にゴミが落ちてるとき拾っても褒められず、見て見ぬふりして通り過ぎたら呼び止められて怒られる、ということがありませんか。これはおかしいなって思います。拾ったことを汲んで褒めて伸ばせるというのが青少年育成の仕組みではないかと思ったときから行動に移すようになりました。

**千葉** 我々の活動でいう青少年とは小学4～6年生の思春期に入った頃をイメージするのですが。

**高橋** 青少年の幅は広がりました。発達心理学では青年期は29歳頃まで、学校でみても大学院までであるので働いていない学生という意味では30歳代でもそうなるのかなと。江戸時代では青年は15歳まで、元服して社会に出なければならぬ。本を読んでみるとギリシャのアリストテレスも青年時代について触れてあるわけで、青年といっても一括りには出来ません。

**千葉** その括りのなかでどこにスポットを当てるかということですね。水沢青年会議所では青少年でも発達段階・自己形成が出来ていない子たちに刺激を与える事業を考えます。

一高橋さんの青少年育成活動について教えてください。

**高橋** 子育て支援であるとか児童教育であったりとかするわけですが、幼少期や小学生低学年、福祉、母親の支援を出来る方々を私が潤滑油となって繋げていくことで大きな単位で活動でき、効果も示せるようになります。単体では青少年育成事業が廃れてきているとか目に見えないとか言われたりもしますが、奥州市ではスポットではかなりの数の活動があります。

**小野寺** こういった活動は目に見えないことが多く、子供たちのためにいいことをやっているのに周りに発信されない。もう少しわかってもらえるためにはどうやっていけばよいのでしょうか。

**高橋** アピールしていくにはビジネスライクな双方Win-Winになれる関係が必要です。今まで通りのことを変えないでプラスアルファし、地域・行政・子ども・青年・家庭を取り込んでミックスしていくこと。それとイキでいて、皆に注目を浴びるような活動にすることが必要です。かっこつけるというわけではなく、目に留めさせるということも活動を継続・発展していくための要素ではないでしょうか。

**千葉** 活動を認知させることで応援してくれる方も多くなっていきますね。

**高橋** そうです。私たちは地域のためにやっており、応援されることで続けていくことができるのです。こういった関係作りが必要であり、支援や奉仕をしている人たちへの後押しにもなるのです。

**千葉** 会も認知され、手を差し伸べられることによって盛り上がっていきますね。

**高橋** 今、「開かれた政策」って流行っているじゃないですか。開かれた学校・教育とか。どんどん開いていく+αが必要ですよ。面白い例だと、学校教育では一般的な授業参観って学校と家庭間の閉ざされたものですが、とある中学校では授業参観や文化祭に職場体験に協力してくれた事業所の方も招待することで、地域に開かれたものになりました。JCや市民会議といった素晴らしい団体があるので繋げていきたいという気持ちがあります。

**小野寺** 私にもそういう気持ちがあります。皆さん仕事をされながら活動をされているので、お互い補いながらやっていくことで、より良いことを子供たちのためにもできるようにします。人口が少なくなってくると活動もできなくなってくると思うので横の繋がりを強くしていきたい。

**高橋** 「わかもの・よそもの・ばかもの」が地域を盛り上げると言いますが、増田寛也さんは地域再生に使いましたが、青少年育成では「わかもの」は継続性、「よそもの」は客観的な協力者、「ばかもの」は楽しいなと思ってやっていける人として適用できるのではないかと思います。

**千葉** 昨年の4月に大村千恵さんに青少年育成について講演会をやっていただきました。そこでも外からの意見をいただいたことで、7月には質の高い青少年育成事業をすることができました。そのとき、「よそもの」の意見は大事であると感じました。

**高橋** いつまでも客観視できる「よそもの」でありたいので色んなところに行かせてもらっています。大村さんも恩師であり、大村さんから指摘いただくことも多々ありますし、私の方から視点を変えるような意見をすることもあります。そのおかげで子ども会育成会との広がりが増えてきてよかったなと思います。

**小野寺** 子供を相手にすることが多いと思いますが、今と昔の子供たちの違いというのはあるのでしょうか。こんなところが足りないとか、こんな風になってもらいたいとか。

**高橋** 今の子どもたちは社会の流れに敏感でものの理解や解釈も、すごく早い。自分たちで楽しいことを見つけたり解決しようとしてします。閉鎖的になっていると言われますがそれは違います。大人とかなり近い考えで動いています。

**小野寺** 我々としては、今の子供達は実体験や非日常体験が乏しくてコミュニケーションが低下し、生活習慣の確立も不足していると考えていたがそうではないということでしょうか。人間関係は少なくなっているように思えるのですが。

**高橋** 昔に比べ、地域の活動や事業、隣近所に対しての無関心というのは逆に言えば安心できる社会になってきたのかなど。今は家も立派で情報も入ってくるようになり、人と人との繋がりがコミュニケーションが必要なくなってきたと思います。必要があれば苦手な子でも話しかけてくれると思います。その必要性を大人が持たせてあげることが重要なのです。また、子どもたちにとって、イケている必要性があります。子どもはダサいのを嫌がりますから。青少年事業の本質は変えなくていいと思いますが、子どもたちの手に取ってもらえるようデザインを変えていく必要があります。

**千葉** 我々の事業も、真面目なことを面白可笑しく、大義名分はあるけどそれを見せないで如何に子供たちにやってもらうかを考えます。去年の講演会で学びました。

**高橋** 頭で考えると結構難しいんですね。

**小野寺** 我々は7月の事業で、子供たちに奥州市の自然や歴史に触れてもらいながら郷土愛を育んでもらうことを考えていますが、正直なところ、これからの子供たちは生まれた場所、奥州市に対して郷土愛を持てるのでしょうか。

**高橋** 持てないかもしれない。歴史というのは大人になってから好きになりますよね。なぜかと言うと子どもたちにとっては今住んでいる地域が全てなんです。学校でもそうです。そこで上手く生きることを考えています。大人になって色々なところに行けるようになり、郷土という概念が生まれるのです。なので子どもたちには郷土の素晴らしさというよりは今生活している場所のことを教えてあげるほうがピンとくるのかなど。外を見たことがないので逆に沖縄の自然と比較することで、地元には四季がある、といった気づきがあり、郷土愛が生まれます。

教科書や児童向け図書が限界なので見せてあげたいですね。ウィキペディア見ただけでは何もわからないじゃないですか。言葉で、仕草で、物を使って、こういう教え方ができるのが人と人とのコミュニケーション。

**千葉** 大人になったときにどう思うかということですね。

**高橋** 一度、比較することによって気づくと、それがきっかけとなって興味が湧きます。例えば皆さんはセブンイレブンの看板を描けますか。思い出しながら描いてください。

(・・・描画中・・・)

**高橋** 描いてもらうことで気付くんです。ELEVE “n” なんです。これを知ると次にセブンイレブンに行ったとき

絶対 “n” を見ますから。郷土も一緒に、気づきを与えると次に奥州市で何かあった時に目に留まるようになります。比較を持たせると発展性を持つきっかけになると思います。如何に子どもたちの目線をもってくるかですね。まちの中から自分しか知らないことを探してみよう、という導入があるだけでもスッと入りやすい。アクションを起こしてリアクションをもらっての繰り返しが続いてきます。

—現在取り組んでいる事業や今後取り組んでいきたいことを教えてください。

**高橋** 色んな団体と関わらせていただいて、個々は素晴らしいのでそれを繋げる潤滑油でありたいと思っています。また、繋がったところで新しい支援の形が出来るかもしれないのでそれに期待しています。個人としては、青年たちがまちなかに出てくるイベントをしたいと思っています。青空の下でカレーパーティーでもいいんです。顔見知りになれるアクションを起こしていきたい。

**小野寺** 小学生だけでなく、中高生を対象にしても良いですね。高校生はまちづくりにも携わることもありますし。

**高橋** イベントで企業が協力してくれたところに高校生が参加して将来の方向性が決まるということは、奥州市の活動で奥州市に就職を決めることにもなります。高校生・青年層を青少年育成というボランティア活動によって社会とマッチング・ミキシングさせていく働きかけは必要。

—我々青年会議所に期待するものはありますか。

**高橋** 社会人であり、地域に根差し、40歳までという年齢制限もあり。中身もどんどん変わっていく特殊な団体であるという特性を活かし、JCでしか出来ないことをやってもらいたいと思います。自分たちが優れているという比較ではなく、客観視し「よそもの」「わかもの」として色んな団体を見て関わってほしいですね。そして「ばかもの」として行動してくれたらだいぶまちは変わると思います。

**小野寺** 高橋さんの言う「ばかもの」でないとやっていけないこともありますし、若いうちでないと出来ないこともあります。

—最後に、市民の皆様へ青少年育成に向けた熱いメッセージをお願いします。

**高橋** 地域の一人ひとりがアクションを起こしやすい環境を我々が作っていきますのでアクションをかけてほしい。それに対して我々が必ずリアクションを返します。そういう関係を広めていきたいので、何か気になることがあればどんどんアクションを起こしていただければと思います。

**小野寺** “ひとづくり”は“まちづくり”、子供たちにも頑張ってもらいたいですね。

—“ひとづくり（青少年育成）”はその対象となる人たちにに向けたアクションを起こしてリアクションをもらうこと、また様々な団体が協力していくことにより発展させていくことが重要ですね。どうもありがとうございました。



初心者女の子も大歓迎

元読売ジャイアンツの  
宮本和知さんがやってくる!

公益社団法人水沢青年会議所主催

## 奥州インディアン旗 野球教室

参加費 無料

先着 50名

参加者大募集!

5.8 [日] 2016年  
9:00~12:30  
(受付/8:00~8:30まで/バックネット裏)

会場 奥州市水沢公園野球場  
(奥州市水沢区中上野1)  
※雨天の場合は奥州市水沢区水沢体育館(公園)

参加対象 奥州市内在住の  
小学校3・4・5・6年生(男女)

当日持参  
●野球にふさわしい服装、帽子着用(野球ユニフォームも可)  
●シューズ(金具がバイク不可)  
●グローブ(用意できない方は裏面に記入する欄が御座います。)  
●飲み物(水筒等) ●保険証のコピー  
●小雨・雨天の場合は室内用シューズを持参

主催 公益社団法人水沢青年会議所  
奥州市水沢区東町4 (水沢商工会館3F)  
TEL 0197-24-2641 FAX 0197-22-6421  
後援:奥州市・奥州市教育委員会  
協力:水沢野形野球倶楽部 奥州市内中学校野球部

講師は元プロ野球選手の  
宮本和知氏

宮本和知氏は下関工業高校卒業後、川崎製鉄に入社し、1984年ロサンゼルスオリンピック野球で日本代表(金メダリスト)となり、同年秋に入団したドラフト候補選手として活躍しました。2000年にJリーグ(98年セレッソ、日本シールド、2006年セレッソ、2007年川崎、2008年川崎)に加入し、在籍中にセレッソ川崎から2010年という輝かしい成績を残されました。引退後はロサンゼルスにベースボール指導者としてメンタルトレーナーとして活躍中。タレント業の傍ら全国各地で子供達の野球指導も積極し、自ら監督を務める子供野球チームでも活躍されています。

## Next event Schedule

〈今後のスケジュール〉

3月 (Mar)

11日(金)  
3月例会  
2017年度東北青年フォーラム  
準備セミナーvol.1  
会場 翠明荘  
担当 フォーラム準備室

4月 (Apr)

9日(月)  
いわてJAYCEEアカデミー  
第2講座(一関)

11日(月)  
4月例会 会員基本セミナー  
会場 水沢商工会館5階中ホール  
担当 三役

## 水沢JC説明会 参加者大募集

日 3月23日(水) 会場 奥州市民活動支援センター(メイプル地下)

時 午後7時~

## 水沢青年会議所の仲間に入りませんか?

地域の青年のみなさん! 他業種の、それも同年代の人々と幅広く勉強し、一緒に行動し、そして友情の輪を広げてみませんか? そうした事の出来る団体が、青年会議所です。40歳までをどう過ごすか、共に考え活動していきましょう!

### 修練・奉仕・友情を信条とし、よりよい社会づくりを目指す。

青年会議所は大きな可能性に向けての自己投資です

## 編集後記

時が経つのは早いもので、東日本大震災から5年が経過しました。あの時、皆さんは何をしていましたでしょうか? 5年という月日が経ちますが、あの日のことは鮮明に思い出されることでしょう。奥州地域では停電になり、暗い寒い夜を過ごしました。そしてガソリン不足。

日ごろの備えが大切だということを改めて思い起こしましょう。大きな災害が起きたらどのように行動するのかを家族で確認してみたいかがでしょうか。

総務広報委員会 副委員長  
佐藤 仁

表紙写真 2016年度「新春のつどい」(上)  
家族懇親会(下)

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております!